

【注】ソーシャルディスタンスを保ちつつマスク着用のうえで取材した後に誌面趣旨へのご理解のもと写真撮影時にはマスクを外していただいた

母と妹がいます」という。なぜに北海道の大学を選んだのか何うと「暑いのに飽きまして笑。7月にオープンキャンパスに参加し、涼しいし学内も綺麗だったので受験を決めました」。しかし最近の北海道は暑い。「はい、暑すぎますね」と屈託なく笑う。カヌー部に所属しているが、以前から経験があったのかというところではない。「入学後、部活やサークルの勧誘が多い中、これがいいや」と飛び込んだんです。カヌーはまったくの初心者でした。同部ではスラロームという競技がメイン。川の上に設置されたゲート間を通り、ゴールするまでのタイムを競うというものだ。馴染みのない方にはまったく縁遠いカヌー。しかし81名もの部員が在籍しているというからすごい。



沖縄出身、札幌の大学に通う田子さん。このページを担当して以来、最も遠方のご出身である。しかも「父は東京、兄は山口、実家には

北海道の様々な川へ。カヌー部で活動中

札幌市在住 19歳 田子 葉月(たご はづき)さん

愛車にカヌーを積んでいる川へ出かけたいですね



の就職ですね。関西はまだ行ったことがない土地なので笑。いやはや、田子さんの好奇心とアクティブさは恐れ入る。その姿勢を生かし、今後の毎日の傍らにお気に入りの愛車がいってくると尚のこと嬉しく思う。

ともあります。その際、クルマを持つている先輩が運転してくれるのだが、いずれ自分も運転して仲間と一緒に出かけたいと思ったのが理由だったそう。在学中に愛車を手にしたいという目標があり、欲しいクルマのタイプを伺うと「室内が広くてたくさん乗れる方が良いのですが、車高は低い方が良いでしょう。カヌーを上げ下ろしするのが大変なので。ユニークな着眼点だが、クルマは自由な乗り物、こういう価値基準があっても良い。

本格的な北海道生活を始めて1年半ほど。北海道を満喫しているか何うと「小樽まで歩いて行ったことがあります。え？ 歩いて？ 私はもちろん、同時に取材させていただいた石崎さん、同席いただいた北海道中央自動車学校の担当者さん、一同全員ポカんとなってしまった。「夜にスタートし、9時間かけて小樽まで歩き、JRで帰ってくるという謎なツアーでした笑」。将来の目標を伺うと「関西

北海道中央自動車学校

札幌市東区北25条東1丁目1-17 TEL 011-711-3344
代表：工藤博樹 学校長：佐藤隆幸



充実した施設とカリキュラム、そして夜10時までのロングラン教習が在校生に好評。地下鉄南北線「北24条駅」から徒歩8分にある。学割コースのほか、各種安心プランを充実。AT教習車にはトヨタ教習車を採用していることも特徴のひとつ。教習・検定ともに土・日・祝日も実施。各検定試験の合格率は常にトップクラスを誇る。

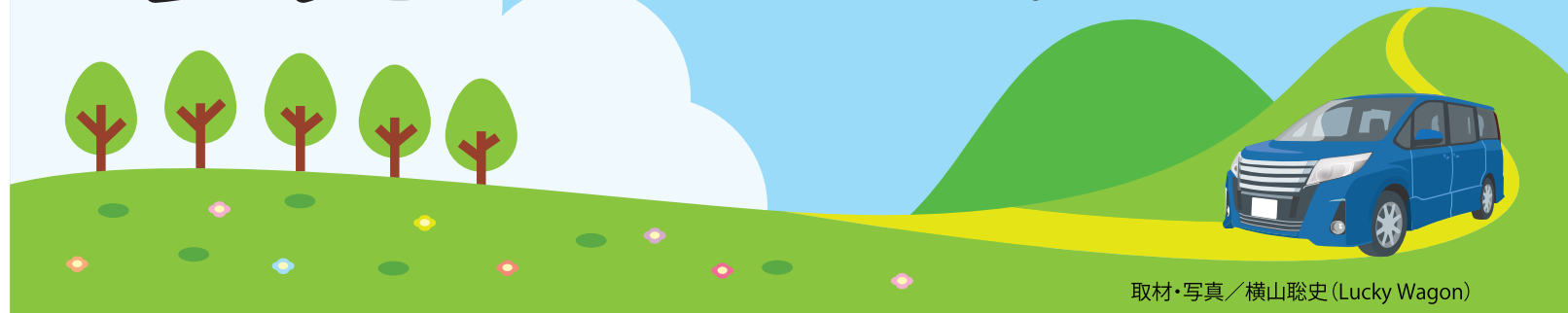


職員からひと言

北海道中央自動車学校
教務部教習課
相澤 隆さん
(あいざわ たかし)

足掛け47年ほどの教務経験がありますが、時代も車の技術も、そして交通法規も色々と変化してきています。教務にあたって意識しているのは、あくまでも生徒さんを尊重すること。例えばクランクやS字で失敗してしまっても、なぜ失敗したのかを自主的に考えてもらえるように導くことです。そして教習コース内で失敗したことをポジティブに捉え、次に生かしてもらうことですね。基本を決しておろそかにせず、常に先を読んで「まさか！」に備える運転。当校卒業後も親交のある生徒さんが多々おられます。ぜひ安全運転でお過ごしください。

運転免許 とって 第13回 夢見るカーライフ



取材・写真／横山聡史 (Lucky Wagon)

北海道で生活する上でクルマは必需品

札幌市在住 22歳 石崎 そり(いしがき そり)さん



小樽出身、現在は札幌の大学に通う石崎さん。「実家には両親と祖母、妹がいます。妹以外は全員運転します」とのこと。幼い

頃から二セコをはじめ道内各地へのドライブを楽しんできたそう。そのせいか「北海道に住んでいる以上、運転免許は必須だと思います」と言い切る。まだ就職へ向けての動きは本格的に始まっておらず、必然性に迫られての運転免許取得というわけではない。「祖父がクルマ好きで、旅行に行くときには交代することもなく祖父が一人で運転してくれました。大学のサークル活動では先輩が運転してくれませんが、ドライブって格好良いと思います。なるほど、乗員の安全を配慮しつつ、目的地まで乗せて行ってくれるドライバー、確かに格好良いかもしれない。

金髪にタンクトップという出で立ちの彼女、イマドキの女性かと思いきや、実は5歳の頃よりピアノを始め、現在ピアノサークルに所属しているという。月に一回、学内のホールなどでコンサートがあるほか、旧帝大コンサートという大きな催しも毎年開催されている。旧帝大とは明治く昭和、帝国大学として設立された大学の総称で、持ち回りでコン

サークル活動をはじめ、格好良いと思われるドライバーを目指します



さらに「道外出身の友達には運転免許取得率が高く、レンタカーやカーシェアを活用しながら道内のあちこちへドライブしていますよ」と一言。若い方々がクルマの利便性や魅力を知り、アクティブに活用しにくれることは、クルマ好きの一人として素直に嬉しい。

サートを開催しているため、昨年は名古屋、今年9月には宮城へ遠征するそうだ。好きな作曲家を伺うと「ショパンです」と即答が返ってきた。

好きなクルマのタイプは「大きくてゴツイクルマです。オフロード系の4WDが良いですね」。高校生の頃、お母様が運転するクルマに同乗した際、助手席側から突っ込まれた経験があるという。ご本人は後部座席に座っていたため大事にはならなかったそう。その経験が記憶にあるのかもしれないが「漁師さんのお手伝いに道東まで行ったことがあるのですが、峠を越えたり荒れた路面を走ったりした経験が影響しているかもしれません。取材中「ピアノ、ショパン、オフロード4WD、漁師の手伝い」といったキーワードが脳内でぐるぐる動いていたのだが、好奇心旺盛かつ多才な人であることは間違いない。